熊谷スマートシティの今後の取組（案）

令和４年11月25日　Web開催
熊谷スマートシティ推進協議会　データ活用部会　（R４年度第三回）

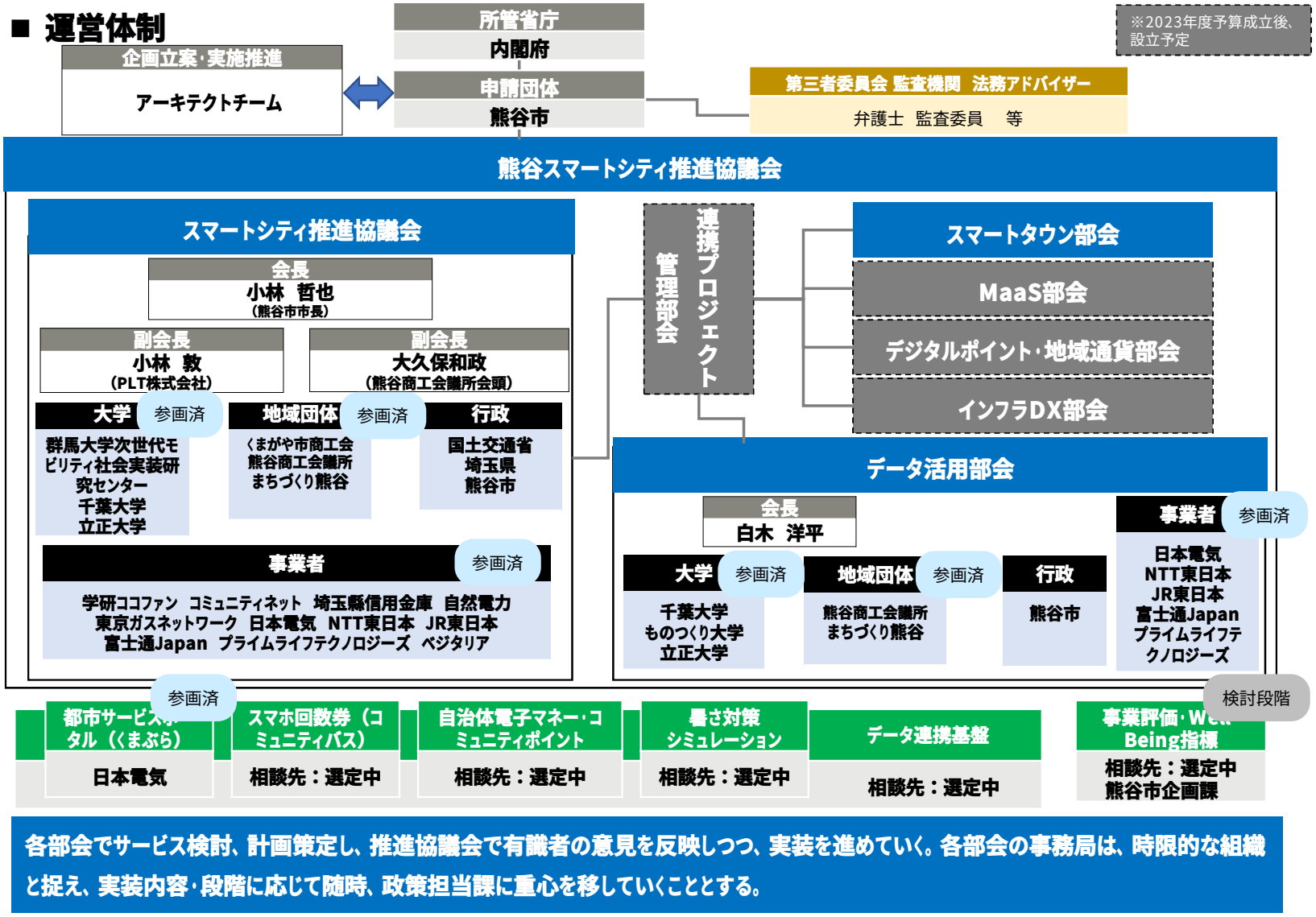
熊谷市役所　政策調査課・企画課

【1】委員提供資料

【2】スマートシティ全体に係る報告事項

推進体制

■ 運営体制



各部会でサービス検討、計画策定し、推進協議会で有識者の意見を反映しつつ、実装を進めていく。各部会の事務局は、時限的な組織と捉え、実装内容・段階に応じて随時、政策担当課に重心を移していくこととする。

【3】市民のデータ活用に関する啓発や体験機会の拡大等を図る取り組みについて

市民の様々な活動データをまちづくりに活かす取組み

■方針　市民の自家用車・自転車・公共交通・歩行の移動手段を総合的に検討する委員会や、オプトインデータの利用に係る研究会等を設けることで以下括弧内の課題に対処。

（１）まち系（一部スマート要素含む）：　（仮）まちなかウェルカム委員会
（まちなか「への」「での」移動に着目した、まちなか再生）

［関係課等］（仮）商工業振興課（中活）、企画課（交通）、都市計画課、
スポーツ観光課ほか

［委員等］

（注）スポーツ文化公園で複数の大規模行事が同時開催された際などの移動手段別誘導策の最適組み合わせ検討についても今後取り扱い課題となる可能性あり。

（２）スマート系：　データマーケティング研究会　（くまぶらの利用データ等活用）

［関係課等］【２】（１）くまぶら定例会（コンテンツ会議）関係課

［委員等］

【リーディングプロジェクト】
ＤＸによる市民生活の利便性向上と新たな経済活動の創出（案）

〇自治体DXによる人にやさしい熊谷の実現

〇マイナンバーカードによる身近なサービスの拡充

〇スマートシティ推進による地域コミュニティの活性化

〇ICTを活用した学びの充実

〇誰でも・どこでもアクセスできるデジタル社会の環境整備

〇地域経済を守るデジタル地域通貨の普及

【リーディングプロジェクト】
ＤＸによる市民生活の利便性向上と新たな経済活動の創出（案）

市民の利便性を向上させ、市民の快適な生活とともに、満足度を向上させられるように、デジタル技術を活用した環境整備を進め、社会情勢やニーズの変化に対応した効果的な行政施策を実施するための自治体のＤＸ（デジタル・トランスフォーメーションを推進します。

加えて、様々な官民データの分析や事業者との連携を通じて、市民の活動や暮らしの質の向上に資するサービスを創出するとともに、事業者の新規事業開拓による経済活動を促進するほか、スポーツや文化に係る来訪者への情報提供等により、新たな人の流れを生み出し、他地域との交流を活性化するなど、スマートシティの実現による活力のあるまちづくりを推進します。

【参考】他のリーディングプロジェクトにおけるDX関連項目（整理中）

○子育てアプリの活用
　～親子の笑顔が輝くまちづくり

○ユニバーサルデザインのまちづくり
　～誰もが活動しやすく、支え合う地域づくり

○移動支援及び公共交通の充実
　～誰もが活動しやすく、支え合う地域づくり

○熊谷版スマートハウスの推進
　～ゼロカーボンシティを実現するまちづくり

子育て世帯向け情報提供の改善等の検討に取組中

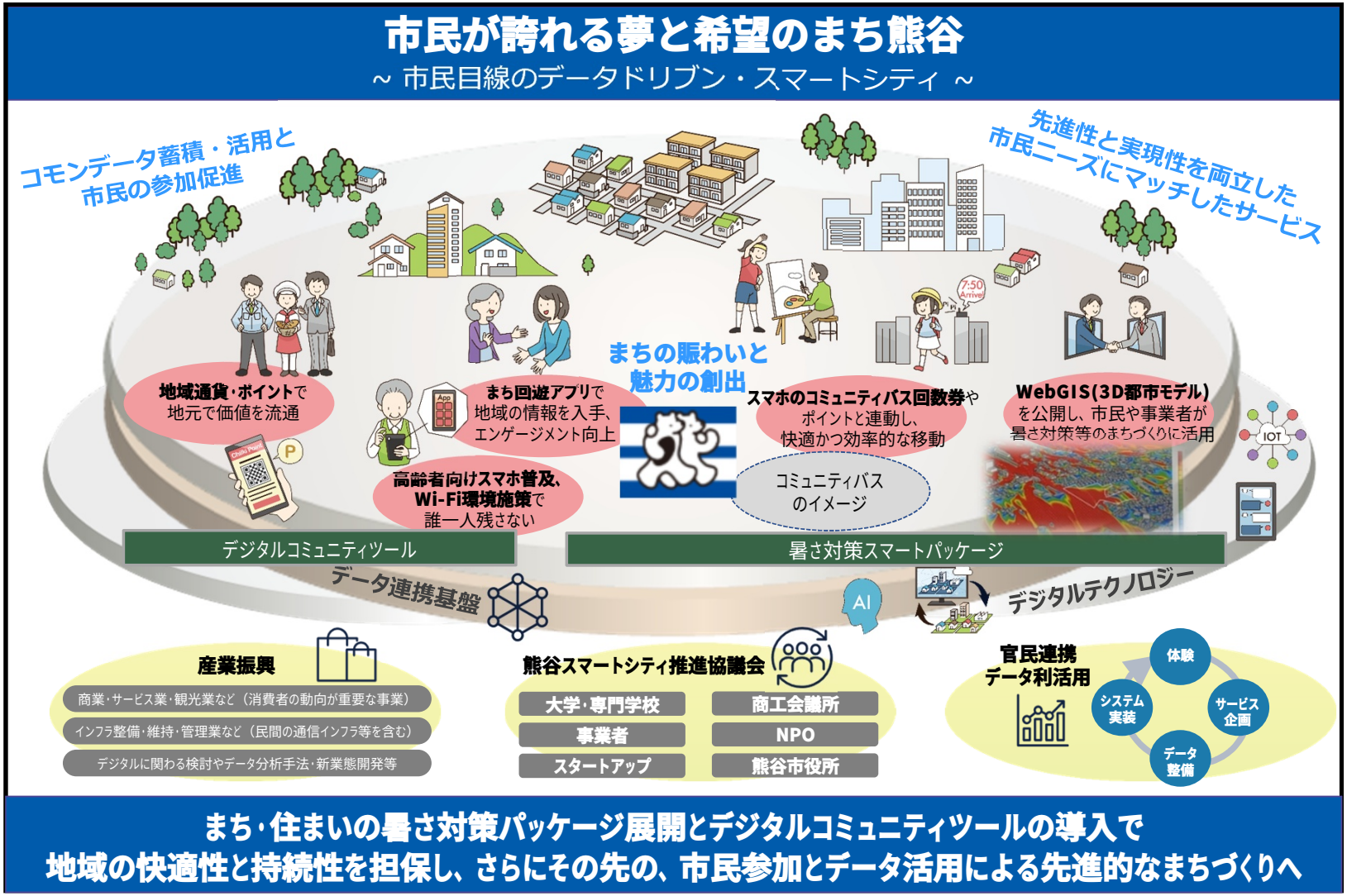
バリアフリー情報のデジタル化等に取組予定

Maas及び人流に着目したまちなか活性化等に取組予定

気候シミュレーション・エネルギー融通等と連携

デジタル田園都市として実現したい地域の将来像（案）

■ 実現したい地域の将来像（イメージ）



【4】市民のデータへのニーズの把握や協働での整備に向けた取り組みについて

土地利用等の分析に利用可能なGIS系コモンデータの提供方針について（案）

令和４年１１月２５日

データ活用部会（熊谷スマートシティ推進協議会）向け報告

【目次】

１．熊谷市のGIS系コモンデータの提供方針について

２．熊谷市オープンデータ作成マニュアル（ver1.0）概要

３．３D都市モデルの建物IDにＲ４年度時点でくまっぷに公表されているデータを紐づけ（案）

４．中心市街地のGISデータの提供

①固定資産税上の状況類似地区ＧＩＳデータを公開

②地番図GISデータ（地番を除く土地配置参考データ）を研究用途に提供

（参考）地番図の紙による交付等の事例

１．熊谷市のGIS系コモンデータの提供方針について

熊谷市のGIS系コモンデータの提供について

（１） R5年3月に公表予定の熊谷市オープンデータ作成マニュアル（ver1.0）に基づいて公表予定。

（２） ３D都市モデルの建物IDに、Ｒ４年度時点でくまっぷに公表されているデータの紐づけを検討。
（Ｒ５年度にオープンデータ化、ＡＰＩ対応を行うことを検討中。）

（３） 中心市街地の固定資産税上の状況類似地区ＧＩＳデータを公開、地番図GISデータ（地番を除く土地配置参考データ）を研究用途に提供。（Ｒ５年度予定）

２．熊谷市オープンデータ作成マニュアル（ver1.0）概要
（ R5年3月に公表予定）

熊谷市オープンデータ作成マニュアル（ver1.0）目次案

Ⅰオープンデータに関する基本的事項
　１はじめに
　（1）オープンデータの定義
　（2）オープンデータ推進の意義
　２オープンデータに関する基本的なルール
　（1）公開データの形式
　（2）公開データの二次利用について
　（3）データ利用に関する無保証、免責について
　（4）二次利用を可能とした契約条文の整備について
　３公開データについて
　（1）公開データの検討
　（2）推奨データセットについて

Ⅱオープンデータ公開の手順
　１本市のオープンデータ公開場所
　２オープンデータ公開までの流れ
　３データの更新について

Ⅲデータ作成時における技術的指針
　１データ作成にあたって
　２ファイルに関する仕様
　（1）ファイル名の命名ルール
　（2）文字コード
　（3）ファイル内容・プロパティの事前確認
　３表形式データについて
　（1）データ作成における基本原則
　（2）データ記述のルール
　４文書形式データについて
　５地理空間情報の表記について
　６ＸＭＬ形式データについて（３Ｄ都市モデルとの連携）

Ⅳチェックリスト

３．３D都市モデルの建物IDにＲ４年度時点でくまっぷに公表されているデータを紐づけ（案）

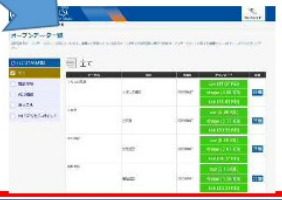
1．データ連携基盤におけるGISデータ連携（修正）

連携するデータは「くまっぷオープンデータカタログサイト」の情報と３D都市モデルと「くまっぷ」の公開情報から作成するデータが連携可能です。

くまっぷオープンデータ



くまっぷの施設情報などのポイントデータは、くまっぷオープンデータカタログサイトより連携

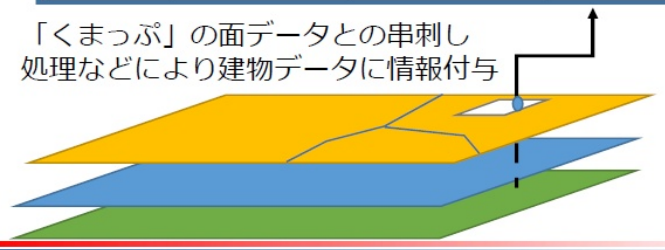


３D都市モデル

熊谷市建物データ（3D都市モデル・基本図ベース）

建物ID	所在地CD	緯度	経度	属性
1111	101	36.144678	139.392123	A
1112	101	36.145123	139.391231	B
1113	102	36.146133	139.391321	A

「くまっぷ」の面データとの串刺し処理などにより建物データに情報付与



© PASCO CORPORATION

「長方形を描画」を検索
PDF を書き出し
PDF を編集
PDF を作成
コメント
ファイルを結合
ページを整理
ファイルサイズを縮小
墨消し
フォームを準備
電子サインを依頼
入力と署名
コメントを依頼
その他のツール
Acrobat Pro DCで
PDFを変換・編集
今すぐ無料でお試し

2．くまっぷ搭載データ例



くまっぷ　搭載データ例

・洪水ハザードマップ

ポリゴン（土砂災害特別警戒区域など）、ポイント（避難所など）

・地震ハザードマップ

ポリゴン（ゆれやすさマップなど）、ポイント（避難所など）

・都市計画情報

ポリゴン（都市計画区域など）

・11号区域指定マップ

ポリゴン（11号区域指定）

・12号区域指定マップ

ポリゴン（12号区域指定）

・小中学校マップ

ポリゴン（小学校通学区域、中学校通学区域）

・施設情報

ポイント（くらしの施設、公民館、文化施設など）

など

© PASCO CORPORATION

「長方形を描画」を検索
PDF を書き出し
PDF を編集
PDF を作成
コメント
ファイルを結合
ページを整理
ファイルサイズを縮小
墨消し
フォームを準備
電子サインを依頼
入力と署名
コメントを依頼
その他のツール
Acrobat Pro DCで
PDFを変換・編集
今すぐ無料でお試し

建物IDについて（案）_㈱パスコ.pdf - Adobe Acrobat Reader (32-bit)
ファイル (F)　編集 (E)　表示(V)　署名(S)　ウィンドウ(W)　ヘルプ(H)
ホーム　ツール　建物IDについて（...
ログイン
4 / 6
99.6%
20

3．（追加ページ）　データ作成１

連携するデータはくまっぷオープンデータカタログサイトの情報と３D都市モデルから作成するデータがあります。くまっぷオープンデータカタログサイトのデータは既に座標情報、属性情報が連携しているので、特にデータ作成は必要ありませんので、こちらでは３D都市モデルからのデータ作成方法をご案内致します。

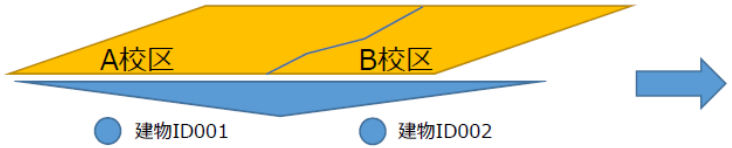
１．パターン１　ポリゴンデータから建物IDへ属性付与する場合

１）代表ポイントの作成



機械処理により、家屋形状データより代表ポイントを作成。

２）串刺し処理によるデータ付与



建物ID	緯度	経度	属性
001	36.144678	139.392123	A校区
002	36.145123	139.391231	B校区
003	36.146133	139.391321	A校区

機械処理により、代表ポイントに面データを重ねて属性付与します。

「長方形を描画」を検索
PDF を書き出し
PDF を編集
PDF を作成
コメント
ファイルを結合
ページを整理
ファイルサイズを縮小
墨消し
フォームを準備
電子サインを依頼
入力と署名
コメントを依頼
その他のツール
Acrobat Pro DCで
PDFを変換・編集
今すぐ無料でお試し
20°C
晴れ
12:17
2022/10/26

4．（追加ページ）　データ作成２

２．パターン２　ポイントデータから建物IDへ属性付与する場合

１）代表ポイントの作成



機械処理により、家屋形状データより代表ポイントを作成

２）属性データの修正



くまっぷデータ

３D都市モデル家屋代表ポイント

手作業により、各属性名称の入力
※市による最終確認必要
　→複数建物がある場合写真だけでは特定できない為
※「くまっぷオープンデータカタログサイト」のデータの代替も検討必要



くまっぷ

例　市役所付近
「くまっぷ」は、地図の見やすさを優先している為、全ての建物にポイント表示していません。

© PASCO CORPORATION

「長方形を描画」を検索
PDF を書き出し
PDF を編集
PDF を作成
コメント
ファイルを結合
ページを整理
ファイルサイズを縮小
墨消し
フォームを準備
電子サインを依頼
入力と署名
コメントを依頼
その他のツール
Acrobat Pro DCで
PDFを変換・編集
今すぐ無料でお試し

４．中心市街地のGISデータの提供

①固定資産税上の状況類似地区ＧＩＳデータを公開

②地番図GISデータ（地番を除く土地配置参考データ）を研究用途に提供

①固定資産税上の状況類似地区ＧＩＳデータを公開

【活用例】

まちなか地価マップ状況類
似エリア色分け版

②地番図GISデータ（地番を除く土地配置参考データ）を研究用途に提供

【１】個々の土地の分筆や地積の更生の際に法務局に届け出られた地積測量図（注）による
市役所の地番図の作成の考え方

（注）土地境界のトラブル等を防止するため、公共座標値（国の基準とする測地系に対応した座標値）として取得することを行政機関としては推奨しているが、任意の座標値で提出される場合あり。

221026_（パスコ）異動通知書（地積測量図）の取り扱い.pdf - Adobe Acrobat Reader (32-bit)
ファイル (F)　編集 (E)　表示(V)　署名(S)　ウィンドウ(W)　ヘルプ(H)
ホーム　ツール　221026_（パスコ）... ×　ログイン
3 / 7　110%

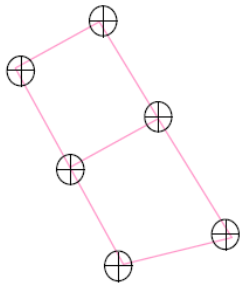
地番図修正　地積測量図の入力

地積測量図



土地の分筆や地積更正の際には、地積測量図をもとに地番図を編集します。
地積測量図に記載のある「座標値」を正確に入力し、筆の形状を作成します。

※合筆は土地登記済通知書の内容と添付されている合筆前後の全体図をもとに編集を行います。

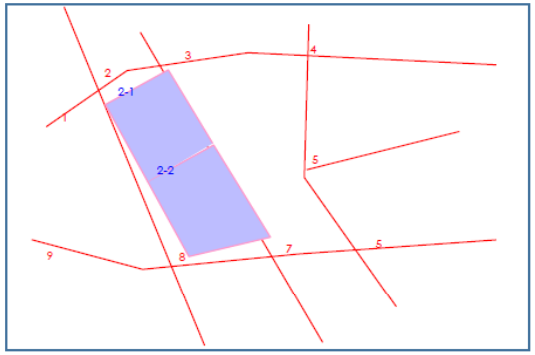


測量図には公共座標値（測地成果2000、測地成果2011）と、任意座標値の2種類があります。
どちらも地積測量図に記載された座標のとおり形状を作成しますので、測量図と完全に合致した面積となる高精度の筆界を作成します。

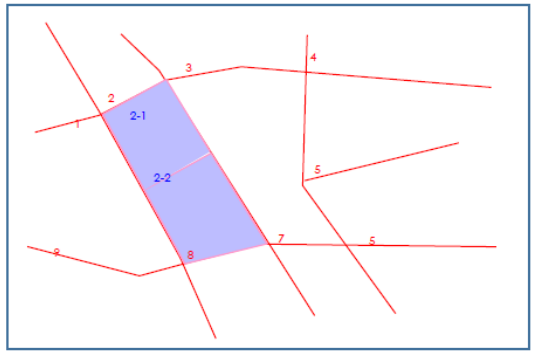
© PASCO CORPORATION
PASCO
「図形を描画」を検索
PDF を書き出し
PDF を編集
PDF を作成
コメント
ファイルを結合
ページを整理
ファイルサイズを縮小
墨消し
フォームを準備
電子サインを依頼
入力と署名
コメントを依頼
その他のツール
Acrobat Pro DCで
PDFを変換・編集
今すぐ無料でお試し
14°C
晴れ
9:10
2022/10/26

221026_（パスコ）異動通知書（地積測量図）の取り扱い.pdf - Adobe Acrobat Reader (32-bit)
ファイル (F)　編集 (E)　表示(V)　署名(S)　ウィンドウ(W)　ヘルプ(H)
ホーム　ツール　221026_（パスコ）...
ログイン
4 / 7　110%

従前地番図への接合方法（公共座標値）



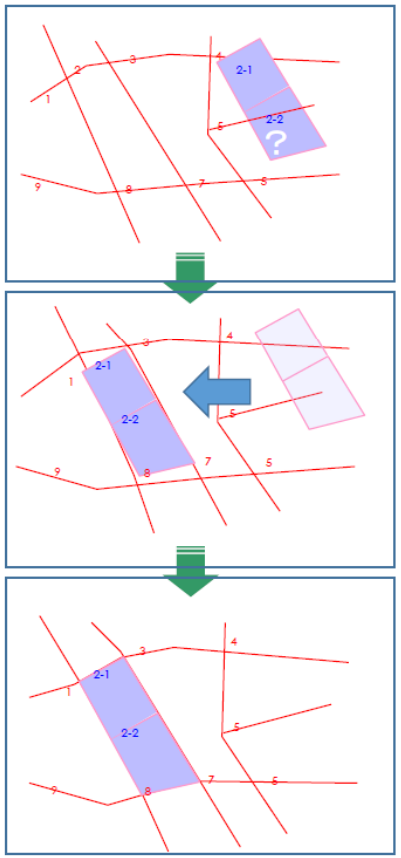
「公共座標値」から作成した筆形状については、位置・形状が既に決定しています。
むやみに周辺の地番図状況に合わせ、**位置を変更することは行いません。**



地積測量図どおりに入力した筆形状と周辺筆との間に、ズレ等が生ずる場合は、航空写真等と確認しながら、**周辺筆を編集**し、地積測量図どおりに入力した筆形状側へ合わせるように編集します。

© PASCO CORPORATION
PASCO
「図形を描画」を検索
PDF を書き出し
PDF を編集
PDF を作成
コメント
ファイルを結合
ページを整理
ファイルサイズを縮小
墨消し
フォームを準備
電子サインを依頼
入力と署名
コメントを依頼
その他のツール
Acrobat Pro DCで
PDFを変換・編集
今すぐ無料でお試し
14°C
晴れ
9:11
2022/10/26

従前地番図への接合方法（任意座標値）



「任意座標値」から作成した筆形状については、**形状は正確なものの、位置については、決定できません。この場合は、航空写真などを基に配置位置を決定します。**

決定した位置と周辺筆との間に、ズレ等が生ずる場合は、公共座標値のものと同様に、航空写真などを確認しながら、**周辺筆を編集**し、地積測量図どおりに入力した筆形状に合わせるように編集します。

© PASCO CORPORATION

「図形を描画」を検索
PDF を書き出し
PDF を編集
PDF を作成
コメント
ファイルを結合
ページを整理
ファイルサイズを縮小
墨消し
フォームを準備
電子サインを依頼
入力と署名
コメントを依頼
その他のツール
Acrobat Pro DCで
PDFを変換・編集
今すぐ無料でお試し

221026_（パスコ）異動通知書（地積測量図）の取り扱い.pdf - Adobe Acrobat Reader (32-bit)
ファイル (F)　編集 (E)　表示(V)　署名(S)　ウィンドウ(W)　ヘルプ(H)
ホーム　ツール　221026_（パスコ）... ×　ログイン
6 / 7　110%

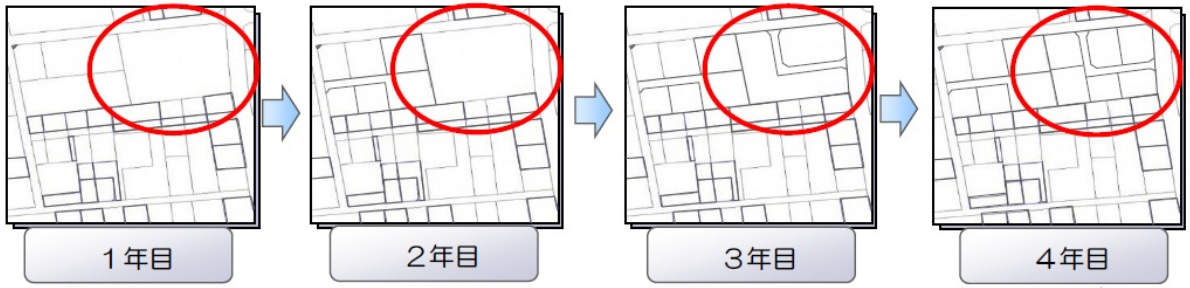
成長する地番現況図の異動更新

地番図を、地積測量図の座標値のとおりに入力を続け、また編集した際の**元資料＝“筆界の由来”**を管理することにより、地番図は**異動を重ねる度に高精度な座標をもった地番図へと成長しつづける**ことができます。

地積測量図成果で入力した筆界は、未来永劫その品質を保ちつづけ、固定資産賦課業務の公平・適正な遂行に寄与し、**納税者へ対する説明責任の向上**に繋がります。

地積測量図	公共座標が付いた地積測量図	筆の位置および形状が現況と同じ
	任意座標がついた地積測量図	筆の位置は正確ではないが形状は同じ
	座標値なし三斜求積有り	筆の位置は正確ではないが形状は同じ
公　図（和紙公図含む）		筆の位置は正確ではなく形状も少し崩れる。 周りの筆の位置関係は概ね正確。

更新によって成長しつづける地番現況図



© PASCO CORPORATION
PASCO
「図形を描画」を検索
PDF を書き出し
PDF を編集
PDF を作成
コメント
ファイルを結合
ページを整理
ファイルサイズを縮小
墨消し
フォームを準備
電子サインを依頼
入力と署名
コメントを依頼
その他のツール
Acrobat Pro DCで
PDFを変換・編集
今すぐ無料でお試し
14°C
晴れ
9:12
2022/10/26

②地番図GISデータ（地番を除く土地配置参考データ）を研究用途に提供

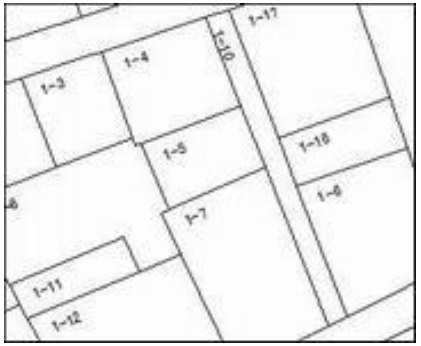
【２】活用例

地番図路線価色分けサンプル

（参考）地番図の紙による交付等の事例

〇前橋市では、地籍図（注）について、誰ても交付・閲覧申請を可能としている。（郵送での交付も可）

（注）熊谷市の地番図に当たる内容。



・左図は前橋市Webサイトに掲載された地籍図のサンプル。

・前橋市では法務局の公図を基に作成。隣接する複数の公図をつなぎ合わせ、現況に合わせて調整しているため、土地によって公図とも現況とも形状が異なることがあることをことわりつつ、周辺の土地の配置や形を把握する際に利用可能として500分の１の縮尺を基本に提供。（詳細次項）

（前橋市）地籍図(地番現況図)の交付・閲覧について

https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/zaimu/shisanzei/shinseisho/6783.html

地籍図とは

地籍図は、前橋市内の土地の形状と配置、地番を記した図面です。前橋市では法務局の公図を基に作成しました。
隣接する複数の公図をつなぎ合わせ、現況に合わせて調整したため、土地によって公図とも現況とも形状が異なることがあります。周辺の土地の配置や形を把握する際にご利用いただけます。
なお、更新は1年に一度ですので、最新の状態を把握する必要がある場合は法務局で公図を請求してください。

地籍図のサンプル

また、航空写真と重ね合わせた図面も交付することができます。（航空写真地籍図）
航空写真地籍図の詳細については下記をご覧ください。

航空写真等の交付・閲覧について

交付・閲覧対象者

誰でも交付・閲覧申請をすることができます。

手数料等

1枚の交付（閲覧の場合は、1回）につき350円
縮尺は500分の1を基本としますが、要望により1000分の1等の異なる縮尺でも交付します。

取り扱い窓口

市役所2階資産税課32番窓口

郵送での請求も可能です。

縮尺等の確認事項がありますので、事前にお問い合わせください。

提供書式

市税証明請求書・委任状 (PDFファイル: 156.5KB)

注意事項

この図面は土地の形状と配置を示すために作成したものであり、公図や現況と異なる部分があります。
地籍図は課税上の資料であり、分合筆等が未了の場合があります。
面積の算出及び権利関係の確認には使用できません。

手続きにかかるおおよその期間

窓口の場合は、10分程度で交付となりますが、内容や枚数により時間がかかる場合もあります。
郵送の場合は、受付日から一週間ほどかかります。

行政手続法（条例）などの処理基準

地方税法第380条第3項

地方公共団体名	埼玉県熊谷市

【３D都市モデル整備・活用事業（都市空間情報デジタル基盤構築支援事業）】

3D都市モデルを活用した新たな価値創造/課題解決（ユースケース）企画資料

１．プロジェクトの全体像

自治体概要

【地理、人口、産業の現状等】
埼玉県の北部、東京都心から50～70km圏に位置している。充実した広域交通機能を生かした産業振興を進めている。人口は約19万人。

【特色等】
熊谷市はスマートシティを推進しており、データ連携基盤整備及びオープンデータ化の検討を進めている。そのため、現在計画が進行しているＪＲ熊谷駅周辺地区での公共施設の再編や市民も参画したウォーカブルなまちづくりに向けた検討に、デジタル技術を活用することで課題を可視化し効率的なまちづくりを進める。



３D都市モデルを活用して創造したい価値／解決したい課題

ア：ＪＲ熊谷駅周辺の中心市街地内における再開発、再整備による景観シミュレーション
イ：季節ごとの日射角の変化に応じた街路樹による緑陰の可視化、分析
ウ：気象の変化に応じた、回遊性の高いウォーカブルなルートやゾーンの形成、シミュレーション
エ：河川洪水浸水想定区域の重ね合わせによる災害危険度の可視化
オ：地理条件や気象データを踏まえ、緑陰や風の通り道を考慮した住み心地のよい街区形成のシミュレーション



事業規模

（百万円）

プロジェクト	事業規模（想定）
ア　3D都市モデル整備事業（LOD2）	
イ　3D都市モデルを活用した庁内講習、市民WSの開催	
ウ　3D都市モデルを活用した都市計画立案、災害リスクの可視化事業(プラグイン開発)	
エ　3D都市モデルを活用したまちづくりオープンデータ化事業	

関連する計画等及びその概要

①「熊谷スマートシティ推進協議会実行計画（熊谷市）」

「暑さに対応したまち」
⇒「暑いなかでも健康で快適に過ごせるまちの形成」の取組を展開する。

「モビリティ」
⇒「暑いなかでも快適で暮らしやすく、かつ訪れたくなるまちの形成を実現する地域公共交通の構築」の取組を展開する。

「スポーツ」
⇒「暑い中でも安全かつ快適にスポーツを楽しむことのできるまちの形成とスポーツを核とした魅力向上」の取組を展開する。

これらの地域の課題を、ﾃﾞｰﾀ連携基盤(都市 OS) を介してデータを共有・活用することで高度化・効率化、そして課題解決を図る。

問合せ先

所属：　総合政策部企画課
都市整備部都市計画課

担当者：

Tel:　048-524-1111(528)
0493-39-4807

Mail:

地方公共団体名	埼玉県熊谷市

3D都市モデルの整備計画

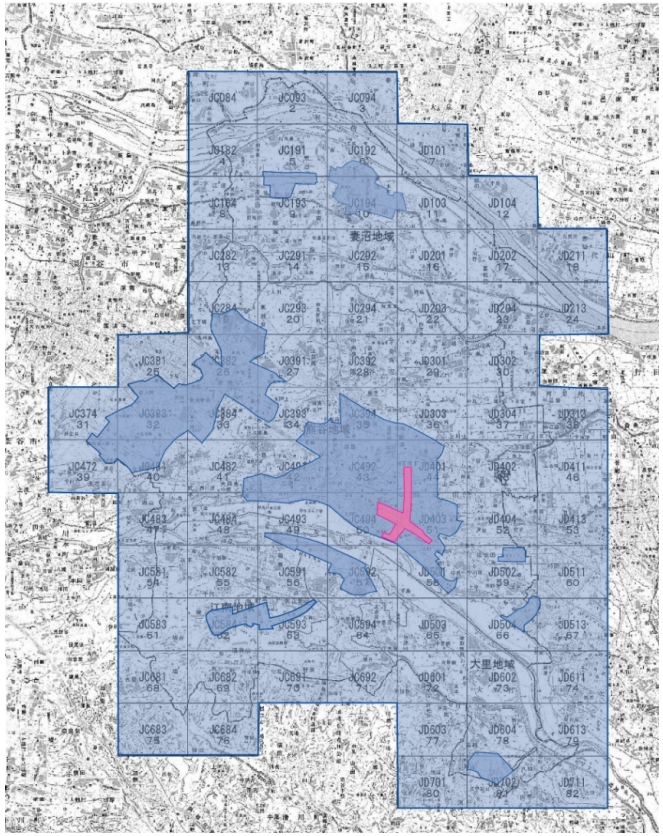
整備範囲

詳細度	整備範囲	整備地物
LOD1	市街化区域 （26.38㎢）	建築物、道路、都市計画決定情報、 土地利用、災害リスク、地形 ※市全域は、2021年6月整備済み。市街化区域内のみを更新する。
LOD2	JR熊谷駅周辺エリア （0.6㎢）	建築物、道路(車歩道区分)、街路樹、新幹線高架橋

整備に活用するデータ

平面図	都市計画基本図 （市街化区域内更新 26.38㎢）
測量成果	航空写真測量（2020年度）
属性情報	都市計画基礎調査（2020年度）

熊谷市データ構築範囲索引図



【３D都市モデル整備・活用事業（都市空間情報デジタル基盤構築支援事業）】

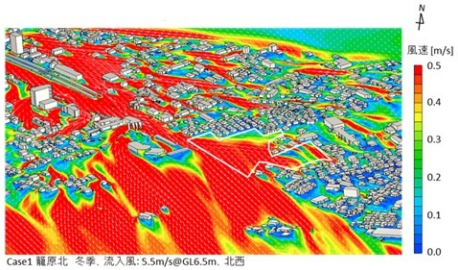
3D都市モデルを活用した新たな価値創造/課題解決（ユースケース）企画資料

３．ユースケース企画概要

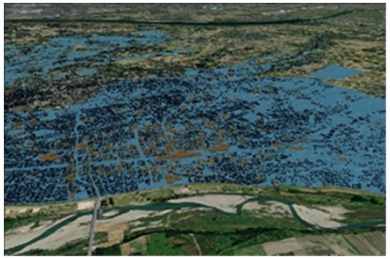
地方公共団体名	埼玉県熊谷市
ユースケース名称	ア　3D都市モデルを活用した可視化事業
カテゴリ	都市計画・まちづくり／防災・防犯／観光・地域活性化・コンテンツ／環境・エネルギー／交通・物流・モビリティ／住民参加／その他

ユースケースの概要

ユースケース名称	ア　３D都市モデルを活用した可視化事業
創造したい価値／解決したい課題	まちづくりや景観形成、災害ﾘｽｸ軽減など、3D都市モデルの活用により、効率的な行政業務の推進、市民への情報提供を進める。
具体的な施策	• 駅周辺の道路への街路樹の配置により、緑陰、表面温度、風の流れなどの変化をわかりやすく可視化するシステムを構築する。 • ３D都市モデル及び浸水想定区域図データを重ね合わせ、災害リスクをわかりやすく可視化するシステムを構築する。 • 駅周辺で計画されている公共施設再編に伴う周辺景観の可視化など、分かりやすく市民に情報提供できるシステムを構築する。 • オープンデータ化による市民ワークショップを開催する。

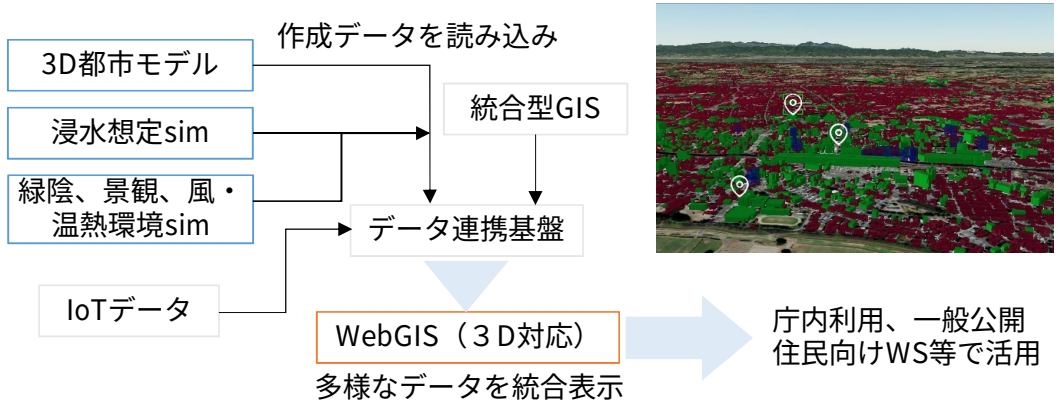


風・温熱環境シミュレーションにより風の流れをリアリスティックに表現



3D都市モデルの属性機能を活用し、建物高さによる色分けによる、河川氾濫時に避難場所と成り得る建物の可視化

システム構成図



アウトカム（成果指標）

指標	目標値
デジタル化による効率的な行政業務の推進についての理解度（アンケート）	30%（2023年度）
ワークショップの開催による市民への情報提供の機会	3回（2023年度）

想定ステークホルダ/技術企業へのヒアリング状況

データ作成	株式会社パスコ
データ連携基盤構築	富士通Japan株式会社、日本電気株式会社
WebGIS操作体験市民WS	株式会社Eukarya
風・温熱環境ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ	株式会社ミサワホーム総合研究所

【5】地域の活性化に向けたデータ活用方策と、活用にあたっての課題への対策の検討について

（案）スマートシティに関する情報コンテンツ充実の取組み

政策調査課（活用促進会議運営担当）
企画課（システム管理・改修、ＫＰＩ管理担当）

（コンテンツ会議参加課）：令和４年１０月末現在
　商工業振興課・スポーツ観光課・ラグビータウン振興課
（関係課）：予定を含む
　危機管理課・市民活動推進課・こども課

新しいツールに関するコンテンツ等を充実させる取組み

■方針　システムの「活用促進」と「管理・改修」の役割分担により、各担当のアイデアの効率的な実現を図る。

（イ）「会議運営担当」：会議の運営を担当。各課のアイデアの立ち上げ等について情報共有やスケジュール設定を促してツール活用の活性化を図ると共に、システム的な機能追加等のニーズの整理を促す。

（ロ）「システム担当」：システムの維持・運営に係る予算確保・執行を行うと共に、機能追加等のニーズに具体のシステム改修等で対応する。

（１）まち系（ツールはスマート）：　くまぶら定例会（コンテンツ会議）

［関係課等］コンテンツ作成に関わる各課・企画課（システム担当）・政調課（会議運営担当）　＋　委託先も同席

（２）まち系（ツールはスマート）：　（仮）コミュニティポイント活用会議

［関係課］（仮）ポイント活用に関わる各課・商工業振興課（システム担当）・市民活動課（会議運営担当）

（※）今後、民間も同席する（仮）「デジタルポイント・地域通貨部会」を熊谷スマートシティ推進協議会の下に設置を予定。（概要は別紙（参考２））

（参考）既存のWeb情報に関しても、子育て情報等について「データ連携まちづくりヒアリング」の対象とし、必要な情報へのアクセスを容易にする方策等について検討中。

くまぶら定例会の運営・今後の課題

■運営

【概要】
コンテンツを作成・運用するために、関係課等が定例（週１回）で行う会議

【コンテンツ運用までの流れ】
１．コンテンツ担当課からの発案
２．運用までのスケジュール感の設定
３．発案に対して、定例会参加者（委託先・システム担当課等）から課題提起
４．課題解決のために「誰が」「いつまでに」「何をするか」の確認の徹底
※３・４を繰り返しながら、２のスケジュールから外れないよう、その都度調整

■今後の課題

◯「食・観光・スポーツ」など、コンテンツとしている分野に偏りがある
→より多くの方に御利用いただけるよう、防災コンテンツ作成に向け調整中

◯市民・職員への周知不足
→新たなチラシを作成したため、駅前デジサイ、市SNSでの広報を予定
→職員向けのくまぶら説明会を１０月末に開催

◯地域や他団体との連携不足
→地域を巻き込んだ定着に向け、スポーツ文化公園との情報連携を調整中

当面のコンテンツについて

１　スマホde雪くまスタンプラリー（スポーツ観光課）

《内容》市内２８店舗の「雪くま」を巡ってもらい、一定の店舗数のスタンプを集めた方に、景品をプレゼントする企画

《期間》令和４年7月１日（金）から8月３１日（水）まで

《結果》参加者数　３９４　人　　総スタンプ数　３８０　個　　全店舗制覇　９人

２　ナゾトキアドベンチャーin熊谷（商工業振興課）

《内容》熊谷の街なかに設定された謎解きポイントを探索して、謎を解きながら進む「周遊型」の謎解きゲーム

《期間》令和４年１１月１日（火）から１２月２５日（日）まで

《結果》チケット販売数　　枚　　完走者　　人（１１月２５日時点）※集計中

３　４スポーツスタンプラリー（スポーツ観光課）

《内容》試合観戦を対象としたスタンプラリーを実施し、異なるプロスポーツの試合等を複数観戦した方に、
景品をプレゼントする企画

対象チーム：埼玉パナソニックワイルドナイツ　　アルカス熊谷
ちふれＡＳエルフェン埼玉　　埼玉武蔵ヒートベアーズ

《期間》令和４年１２月１０日（土）から令和５年３月３１日（金）まで

くまぶら登録者５万人目標（仮）達成に向けて

〇目標年度としては**R6年度**を想定。
（デジタル地域通貨について、敬老祝い金の金券からデジタルへの切り替えも完了する年度を想定。）

〇市民、市外登録者数目標（たたき台・今後関係団体とも調整）
市民登録者３万５千人
市外登録者１万５千人

〇実現手法

・以下の手法でのくまぶら登録者数の拡大を図る。
（市民、市外共）関係団体との連携など
（市民）地域電子マネー、コミュニティポイントとの連携、その他の政策システムやコモンデータ整備（※）との連携など
（※） 例えば子育て関係データのあり方について民間団体との意見交換等を実施しており、これらのデータへのくまぶらからのアクセスのＰＲ・改善に取り組むことで、くまぶらの登録者数の拡大が見込める。

・上記各要素それぞれにくまぶら登録促進を図るだけでなく、組み合わせた企画も検討。
（組み合わせ企画例）スクマムウォーク参加者にコミュニティポイント付与→蓄積したポイントをオリジナルグッズと引き換え

５万人目標（仮）の分担イメージ（案）

〇目標管理　：企画課（デジ田交付金KPI等の管理との連動のため）
　（R6年度　（仮）市民登録者３万５千人、市外登録者１万５千人　）
　（市民サービス等提供、データ収集（オプトイン）の玄関口としての拡充が主目的。）

〇目標に向けた実現手法打合せの場　：くまぶら定例会議（毎週木曜AM：Web開催）
　（※）地域電子マネー、コミュニティポイントに関わる内容は別途、スマートシティ推進協議会の部会でも共有。（くまぶら登録促進と関連づけていることも部会に参考共有。）

〇くまぶら登録促進に関わる重要事項毎の担当
　（※）くまぶら定例会議等を利用してNEC・企画課とすり合わせ。

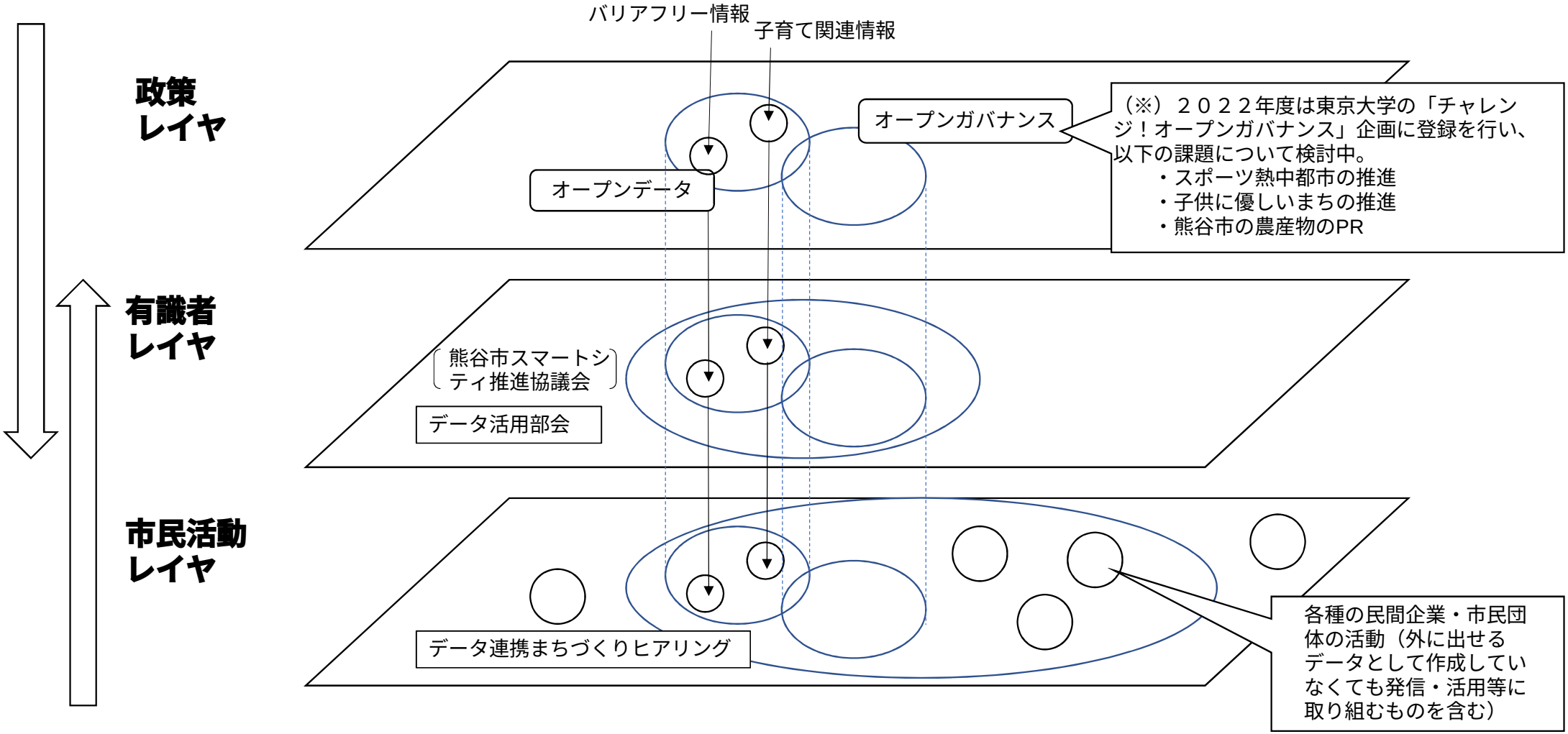
　（市民、市外共）ワイルドナイツとの連携（案）※関係団体と調整
　　→ラグビータウン推進課　（スクマムウォーク参加者にコミュニティポイント付与などの組み合わせ企画は＋市民活動推進課）
　（市民）地域電子マネー、コミュニティポイントとの連携
　　→地域電子マネー　商工業振興課
　　→コミュニティポイント　市民活動推進課
　（市民）その他の政策システムやコモンデータ整備との連携など
　　→コミュニティバス回数券　企画課
　　→子育て情報との連携　　政策調査課＋こども課

【6】データ利用環境の向上に向けた取り組みについて

データ連携まちづくりヒアリング

子育て世帯の情報ニーズへの対応について

データ活用に係る部会等の運用について



市民のデータへのニーズの把握（子育てニーズについて）

①市内子育て拠点職員からの聞き取り

【経緯】

- 子育てのデジタル化に関するニーズついて、子育てネットくまがや代表理事の大崎様から、市職員がお話を伺った。

【御意見と対応案】

・アプリが多く煩わしい

・情報過多で欲しい情報に辿り着かない

対応案

◯くまぶらをインターフェースとしたアプリの集約

◯くまぶらにおいて、自分の属性に応じて優先順位の高い情報から表示されるような機能の実装など

◯一定の属性のユーザーのみに表示されるような機能の実装など

・情報の更新がされていないことが多い

対応案

◯情報更新日の記載ルールの設定
◯掲載終了時期が確定できるものは積極的に利用
◯アプリやWebの検索において、同程度の距離であれば
　新しい情報を優先的に表示する機能の実装など

・公園、遊び場や授乳スペース、おむつ換えスペース、おもちゃ屋、
ケーキ屋などの情報を、子育て世代は知りたいと思っている。
・例えば、それを地域のお母さんたちが調べて、
市のバリアフリーマップなどに登録するのはどうか

対応案

◯くまぶら内のGPS機能で近隣の子育て支援センターや
　子供が遊べる場所を表示できるようにする
◯市民から提供されたデータをバリアフリーマップへ取り込む

市民のデータへのニーズの把握（子育てニーズについて）

②市内の子育てママからの聞き取り

【経緯】

９月２２日　　市内の子育て中の保護者を中心に、熊谷まちあるき
アプリ「くまぶら」の体験会を行い、その後、参加者
によるデジタル化に関する座談会を開催

《座談会で市民から寄せられた御意見》

- アプリ内店舗情報からマップへの展開をわかりやすくしてもらいたい
- アプリが市のHPへの誘導にどの程度貢献しているか把握するべき
- アプリの周知が不十分

【対応】

・アプリ内店舗情報からマップへの展開をわかりやすくしてもらいたい

→店舗の住所自体をタッチする必要があった部分について、
「地図表示」と新たに記載することでマップへの展開が
わかりやすいよう変更した（１０月８日対応済み）

【対応】

・アプリが市のHPへの誘導にどの程度貢献しているか把握するべき

→アプリ（LINE）から市HPへの総アクセス数と、市HPのうち、アプリから飛ぶことができるページの総アクセス数を比較することで、アプリの貢献度を把握していく。

※市の広報部門と月１ペースでの調査を調整中

◎アプリでイベント等を行った際に、この貢献度に変化があるかについても調査できるよう、体制を構築済み

【対応】

・アプリの周知が不十分

→アプリの周知に当たっては、令和３年に行ったアプリ導入時の実証実験のチラシを現在も使用していたため、アプリに関する情報に偏りがあったり、不十分であったりした。

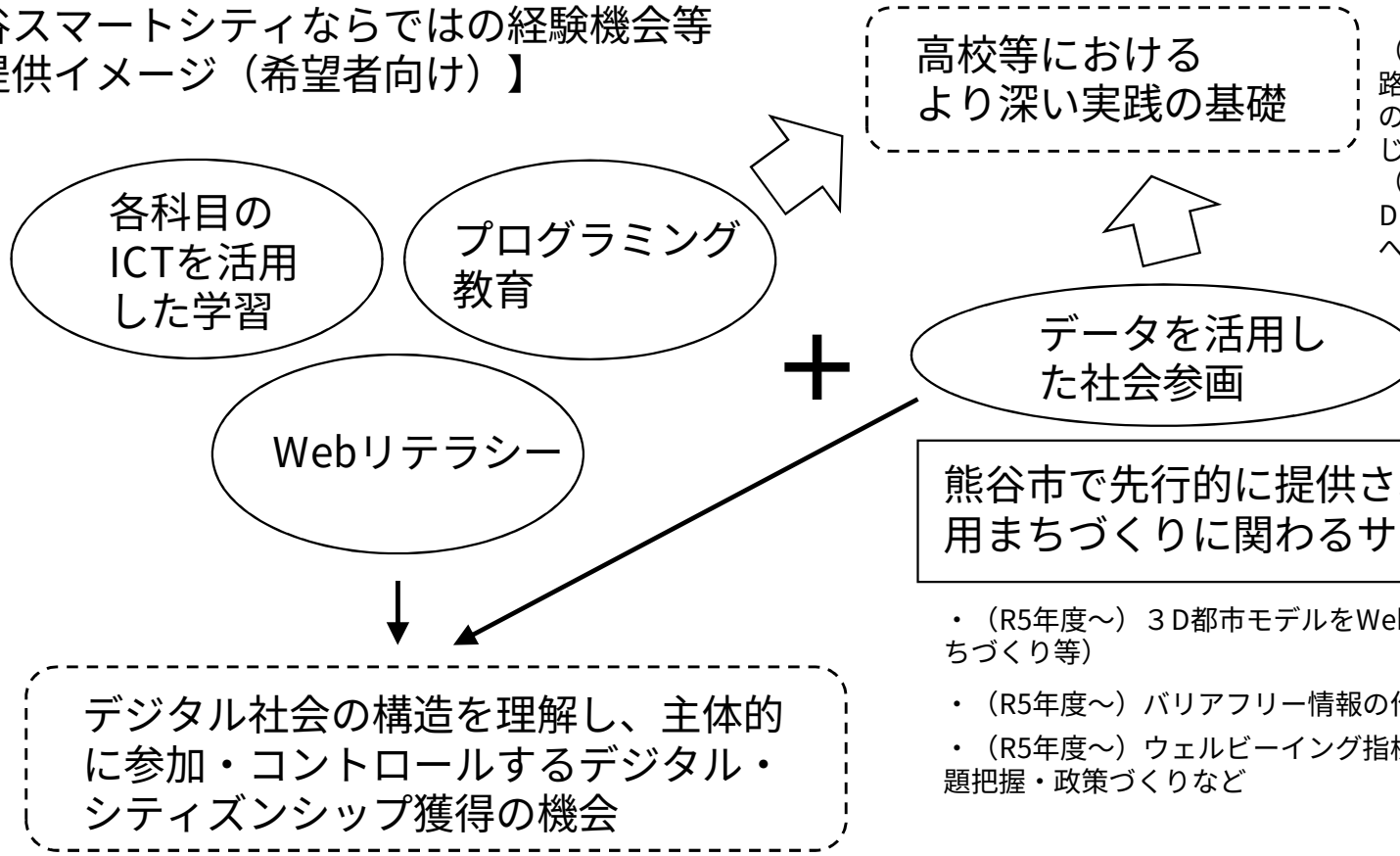
→そのため、新たなチラシを作成し、市のTwitter、Facebook、駅前デジタルサイネージへの掲載を行った。
（１１月２５日現在実施済み）

◎この周知による、アプリ登録者数の変化が調査できるよう、体制を構築済み

中学生の社会活動等向けのデータ提供について（案）

【目的】・R5年度以降、熊谷市民に広く提供する予定の「データ活用による社会への参画」の要素を中学生等にも分かりやすい形で提供し、GIGAスクール構想のために整備されたアクセス・端末環境を、社会的利用の体験機会にもつなげる可能性について教育部局との連携を検討。

【熊谷スマートシティならではの経験機会等の提供イメージ（希望者向け）】



（注）いわゆるデジタル人材としての進路を選ばない場合でも、これからの社会のあり方を地元熊谷の取組みを素材に感じ取れることは生徒の可能性を向上。（地域の歴史・文化等を学ぶ上で、３D・２D等の地図を自ら使いこなすことへの抵抗を下げることも期待。）

・（R5年度～）３D都市モデルをWebGISで活用するWS（防災・景観・まちづくり等）

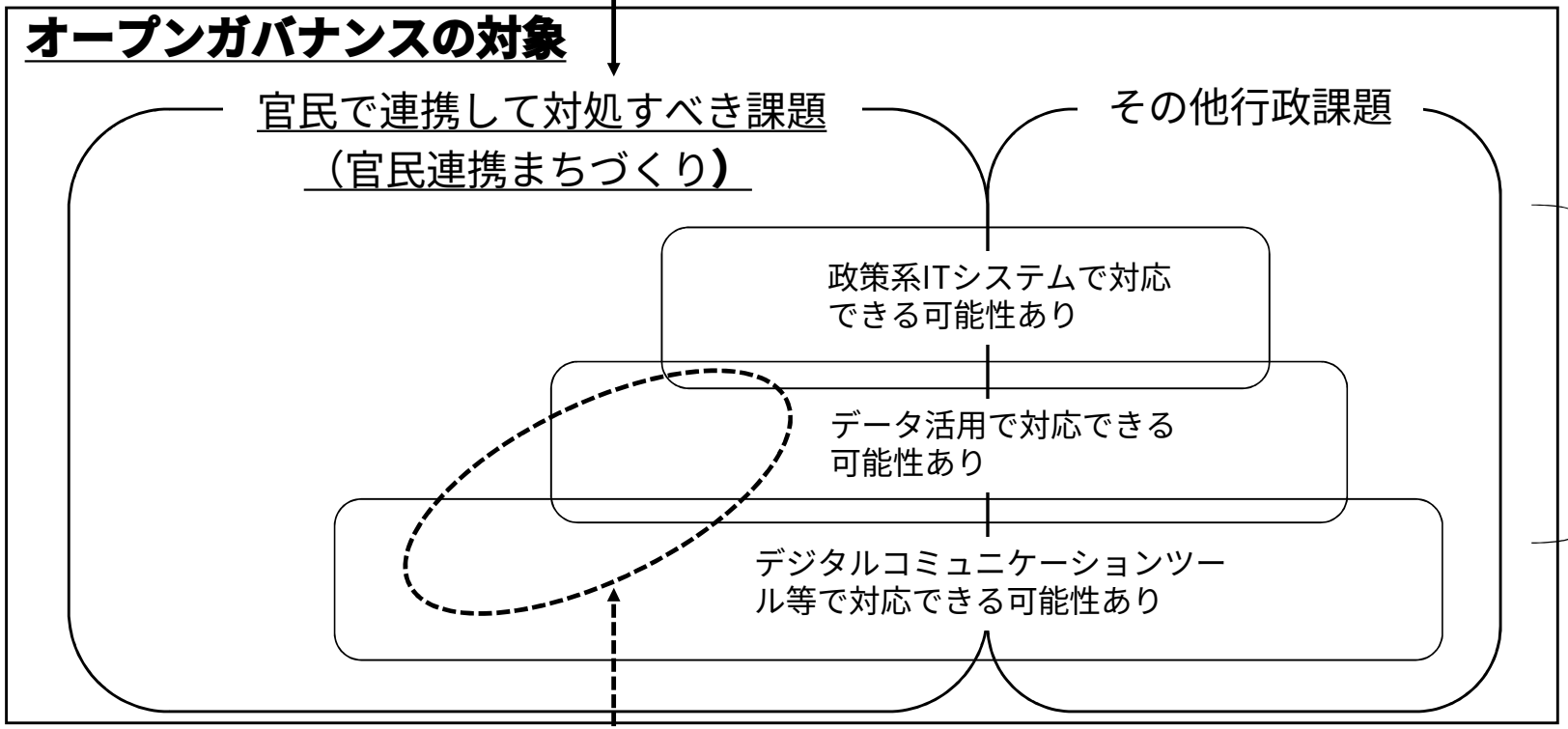
・（R5年度～）バリアフリー情報の作成・公開（熊谷の力事業）など

・（R5年度～）ウェルビーイング指標の向上のための、データを活用した課題把握・政策づくりなど

オープンガバナンスの対象と留意すべき点

（熊谷市の官民連携まちづくり・スマートシティの観点から）

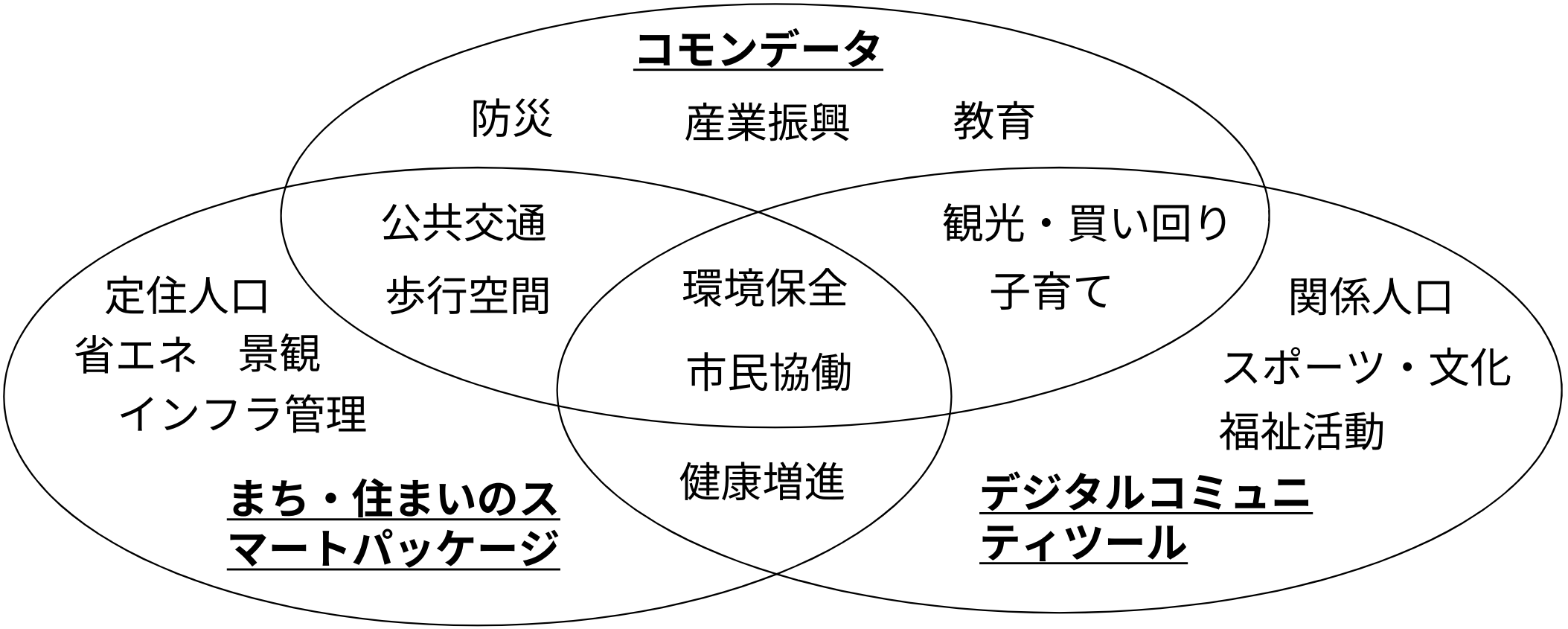
【留意点１】市民ニーズに基づく対象課題の選定、対策の検討に関する市民協働などのプロセスの合意・共有。



熊谷スマートシティの取組み
・政策系市システムの実装・検証サイクル構築
・市民協働のデータ整備
等

【留意点２】社会のデジタル化を活かした「市民参画による社会課題の解決の促進」につながるノウハウの蓄積。

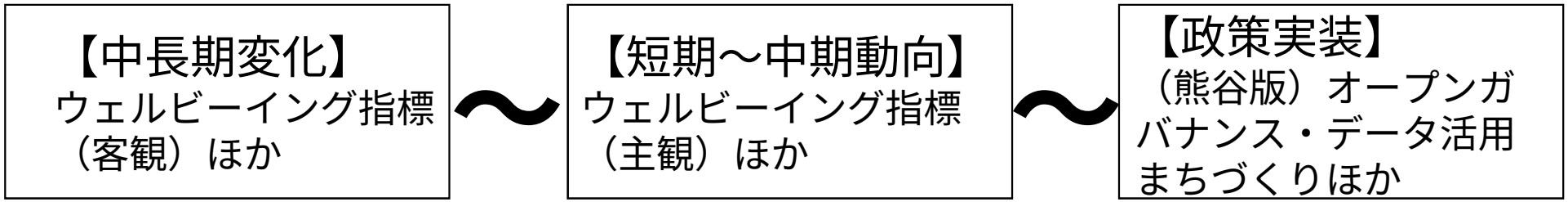
各目標の関連する政策分野



ウェルビーイング指標を活用し、市民との対話・ストーリーの可視化・実装のサイクルを各分野で実現。

（参考）ウェルビーイング指標とオープンガバナンスの活用による政策実装の促進

【政策ツールの活用の場面等】



※　必要に応じ熊谷市独自の指標の追加も検討（自治体間の比較のために国が示す指標は必須の扱い）

【Ｒ５年度以降の取組み】

（１）政策実装プロセス等におけるワークショップ形式の役割の見直し

体験・仲間づくり・方針共有等の手法として有効な場合があるが、その点を強調しすぎることなく、政策実装プロセス等の中に適切な役割と共に位置づける必要がある。

（２）デジタル社会における政策実装の取組みのモデルの共有

Ｒ５年度以降、ウェルビーイング指標に基づく取組をモデルとして、（熊谷版）オープンガバナンスとして検討状況を共有するためのカルテの作成等を行い、デジタル社会における政策実装に向けた基礎的な考え方の市内での共有を図る。

（補足１）政策ワークショップのイメージ（高松市の事例）①

LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：高松市



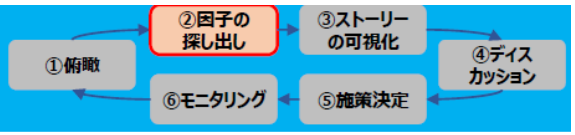
■ **高松市では、LWC指標を活用したワークショップを開催し、対話を基にWell-beingに向かう道筋について議論しました。**

- 日時：2022年5月22日（日）13:00～17:30
- 形式： オンライン&オフライン
- 参加者：自治体の職員や企業の社員等 30名程
- テーマ： LWC指標を使ったまちづくりの構想
  - データに基づいて都市の現状を捉え、発展の道筋を考える
  - LWC指標から人々の幸福につながるまちづくりを考える
  - まちづくりの構想を論理的に考え、可視化しながら議論する
  - サービスコンセプトのアーキテクティング
- プログラム
  - イントロダクション
  - LWC指標紹介(SCIJ 南雲専務理事)
  - オンラインホワイトボードツール操作練習
  - グループごと自己紹介
  - グループワークの説明
  - 1-1 LWC指標 プロフィールをつかむ
  - 1-2 LWC指標 個別指標に注目
  - 2 政策に対する市民の期待を推測する
  - 3 どのテーマに注目するかを決める
  - 4 提供するサービスを考える
  - 全体共有・討議
  - まとめ

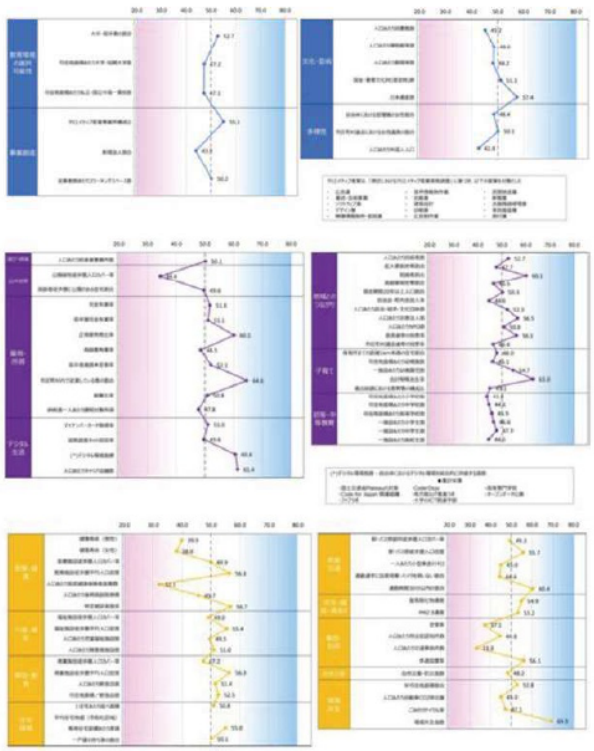


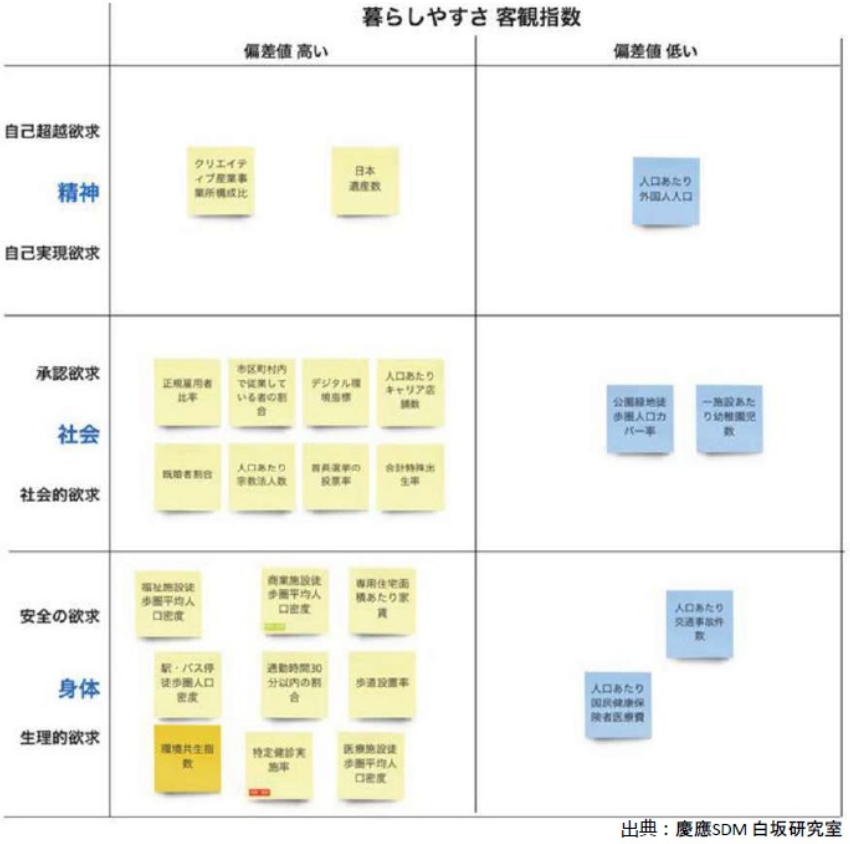
（補足１）政策ワークショップのイメージ（高松市の事例）②

LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：高松市



- ワークショップでは、LWC指標の「暮らしやすさ」の指標を活用し、高松市の置かれている環境について参加者の認識をすり合わせました。特に医療・健康や移動・交通に関する項目に焦点が当たりました。





出典：慶應SDM 白坂研究室

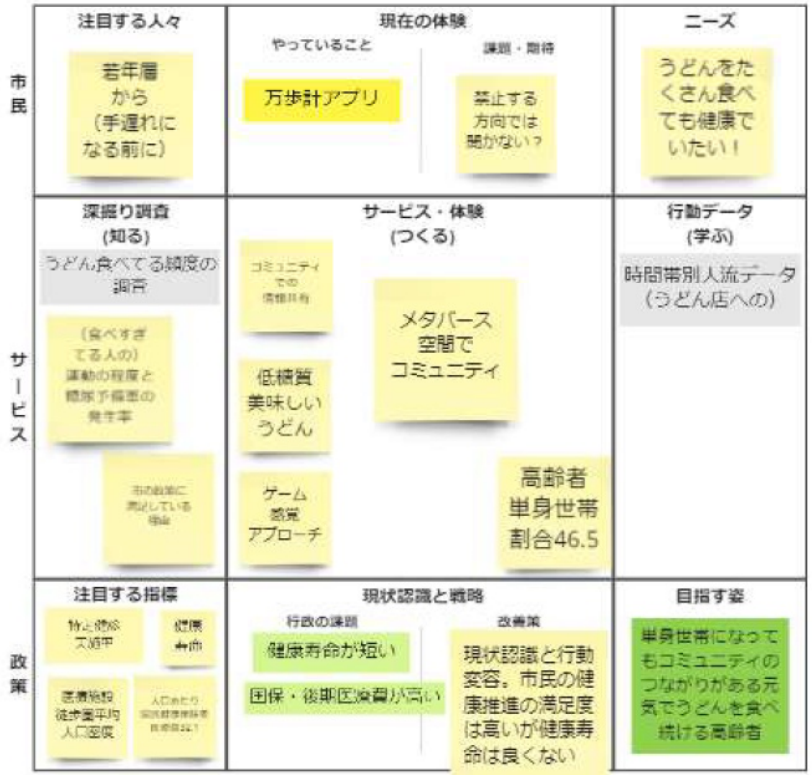
（補足１）政策ワークショップのイメージ（高松市の事例）③

LWC指標の利活用で困ったら？参考となるユースケース：高松市



■ **対話を通してデータを基に客観的な事実から重要となる因子を抽出し、新しいサービス・体験を導出しました。**

ワークショップで活用したフレームワーク



出典：慶應SDM 白坂研究室

ワークショップでの対話



暮らしやすさの指標では、医療・健康の偏差値が低い。うどんを食べないのではなくて、高松の食文化を大切にして、食べたら食べただけ健康になる うどんを開発したらどうか。

食生活だけでなく、コミュニティや地域との繋がりを活かし、市民 みんなで健康になるような取り組みをしていきたい。





コミュニティづくりにメタバース(仮想空間)が活用できるかもしれない。メタバース上で、ゲーム感覚で健康的になれたらいい。

（補足２）ワークショップの成果の分類→複雑な課題にリソースを投入

（※）以下はワンチームクマガヤのWS事例



話し合って分類

民間が社会課題に取り組むことが当たり前の社会の中で、社会課題に取り組む団体や市役所はより複雑で多様な課題に取り組む力を付けていくことが必要

（熊谷版）オープンガバナンスの手法を活用すべき課題

～データ活用等により課題の整理、政策のプロトタイプ（※）の構築等の対応を早めるノウハウの共有が重要

（※）スマートフォンの普及やコモンデータの対象の拡大等によりコストの構造が変わり、また民間・行政の間でのコストの分担の考え方も多様化していることから、早めにプロトタイプを共有することが重要。

民間の活動に対する基礎的な配慮で対応可能な内容

～「後援」「広報の支援（※）」「場所貸し（公共施設の目的外使用）」などの【基礎的な配慮】は特段の支障がない限りは原則として実施。

（※）政策上の位置づけがはっきりしている事業等については、適切に広報を行っていく考え方も重要。

（補足３）業務の効率化以外の面でもノウハウの共有の必要性が増している状況61

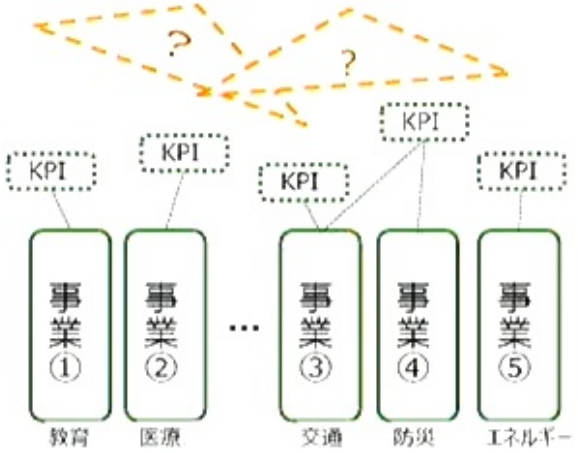
今後、複数の部局が（必要に応じて連携して）事業を担いつつ、ある指標の総合的な向上を目指していく取組みが進んでいく見込み。（Well-Being指標による生活満足度の可視化の方向性を国が提示）

→　各部局のオープンガバナンスの取組みが一定の品質を保っている状況が必要。

どの段階まで検討したが解けなかった課題であるのか、お互いに共通言語を持たなければ、総合的に最大の満足を提供する取組みが進めにくいのは明らか。特段の理由なく、担当によって市民連携の可能性検討の対応が異なる状況は極力避けなければならない。

現　状

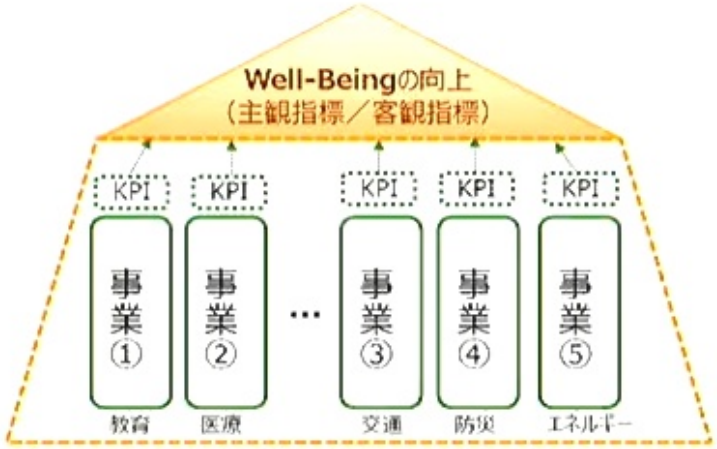
- 複数事業を包括する街全体の目指す価値観の明示が不十分。それぞれの事業が目指すまちづくりの目的や取組もバラバラ。
- KPIの設定も事業毎に独自に設定されており、相互の連関性は低い。



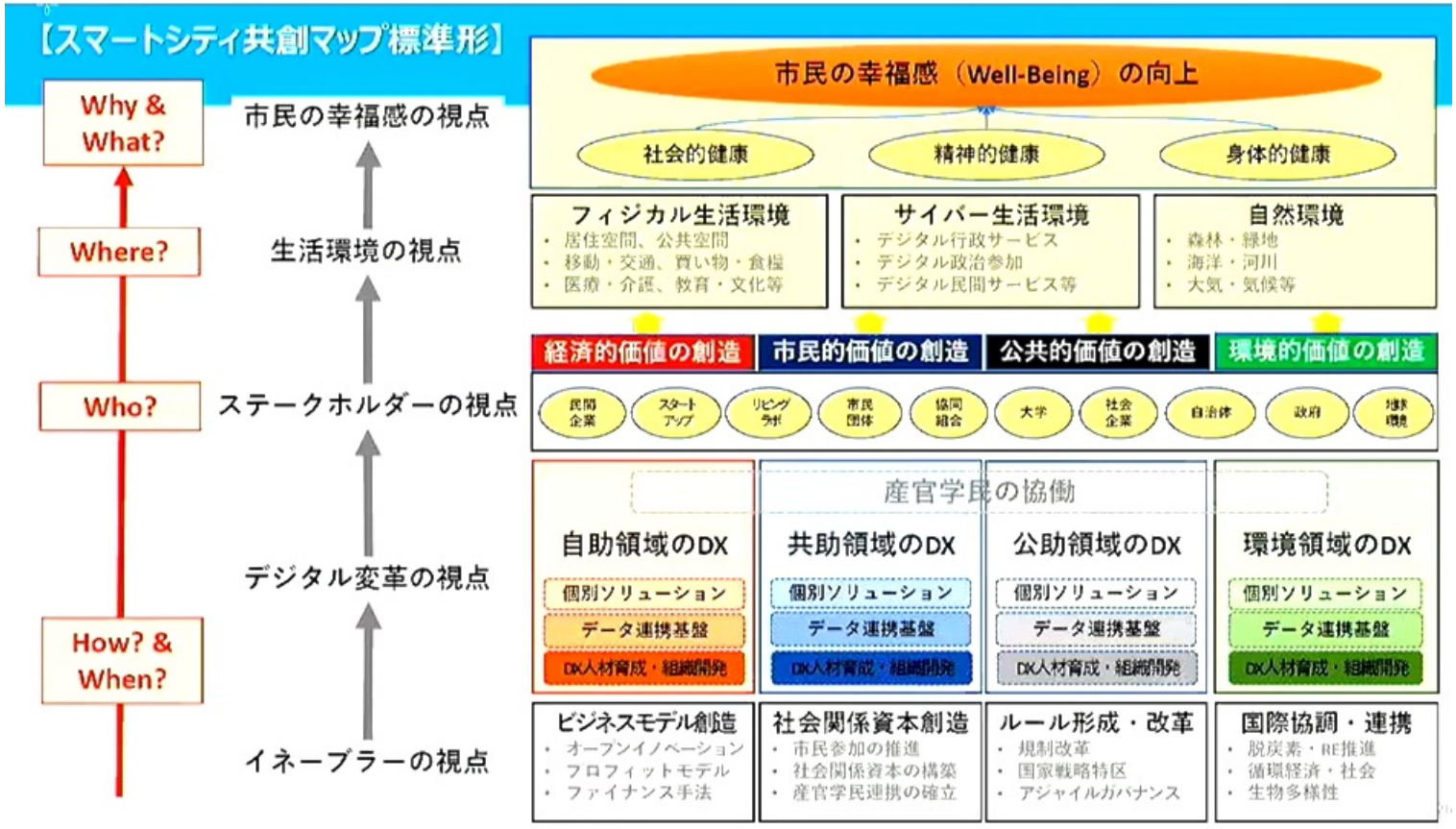
出典：https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digital_denen/dai7/shiryou5-1.pdf

今　後

- Well-Being指標測定のための客観指標に必要なデータ及び主観指標に必要なアンケート調査などはデジタル庁で準備（独自の手法によるも対応可）。
- デジタル田園都市交付金Type2/3採択自治体中心に計測地域を徐々に拡大（任意）。



（補足４）スマートシティの観点を強調した生活満足度向上のイメージ
（スマートシティは手段であって、それ自体が目的ではない。）



（出典）2022**年**10**月**2**日** SCI-Japan**カンファレンス「デジタル田園都市国家構想におけるスマートシティ実装に向けたマネジメントとガバナンスの課題と解決の方向性」**

【7】データ連携基盤構築の検討について